

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：歴史と文化

部会長名：三浦伸夫

作成者名：三浦伸夫

概要（2000字）

I. 本年度の開講授業科目とコマ数

平成 23 年度の「歴史と文化」教育部会は文学部，国際文化学部，発達科学部所属の教員から構成され，教養原論のひとつの区分である「歴史と文化」に属する日本史（前期 3 コマ，後期 3 コマ），西洋史（前期 3 コマ，後期 1 コマ），アジア史（前期 2 コマ，後期 3 コマ），考古学（前期 1 コマ，後期 1 コマ），歴史と現代（前期 1 コマ，後期 1 コマ），科学史（前期 2 コマ，後期 3 コマ），芸術史（前期 2 コマ，後期 1 コマ）の各授業科目を開講した（非常勤講師による授業を含む）。

II. 各授業科目の全体的な内容あるいは目標

「日本史」：日本社会の歴史的特質を，古代から現代にわたる各時代の政治，社会や生活文化の動的な分析を通してあきらかにする。

「西洋史」：ヨーロッパを中心に古代，中世，近代の歴史に即して，その時代の統治構造や社会観系，生活文化をとらえる。

「アジア史」：多様な展開を見せているアジアの各地域の歴史に即しつつ，その域内外の相互連関を重視し，統治構造や社会関係，文化をとらえる。

「考古学」：歴史的遺跡，遺物保存の方法を紹介しながら，当時の社会の実態を復元するとともに，その社会構造や生活文化についても考察する。

「歴史と現代」：近代国家形成とナショナリズム，国際関係史など錯綜する現代を読み解くために，伝統的な社会構造を視野に入れながら，現代世界を歴史的に考察する。

「科学史」：現代における科学技術文明の功罪を省察し，さらに未来への展望を得るために，東西における科学，技術，医学の成立，展開，受容を歴史的具体的に検証し，それらが社会や文化に及ぼした影響を総合的に考察する。

「芸術史」：人間はこれまでさまざまな方法で芸術表現を行い，受容してきた。美術，音楽，デザイン，ファッションなどの領域において，時代や地域の文化的文脈を解明しながら芸術の歴史を考察する。

III. 本年度の主たる改善点

・「歴史と文化」は，学部によらず多くの学生に対して，政治から芸術，考古学，科学等と幅広い歴史分野を題材として学生に歴史感覚が養えるような講義を提供し，歴史を通じて自ら現代文化を相対化して考える契機をあたえるものである。部会としては以上の理念のもと「教養原論」をより豊かなものにするように努力してきた。本年度はとりたてて新しい改善点はないが，前年同様，共通教育と学部教育とは車の両輪の役目をするという神戸大学の教育指針にしたがって，各教員は，単に原論の講義を提供するのみならず，さらに大学における共通教育の意味を積極的に学生に伝え，学生が歴史を通じて自ら共通教育を意味あるものにできるように努めた。

IV. 今後の課題と展望

・現時点では，この教育部会が提供する授業は，あくまでも個々の学問領域の集積として展開されているにすぎないが，歴史的な物の見方や実証的方法論については共通しており，当面は個々の授業の充実化をはかる一方で，将来的にはその共通性を基盤に，教

育目的をさらに明確にしたうえで、より系統だった有機的授業展開へとシフトしていく必要があるだろう。

・少なからずの教員がすでに教育機器を使用している。効果的に使用しているとする教員がいる一方で、機器使用が効果的ではないとの反省をする教員もいる。したがって歴史教育における機器の効果的使用法についてさらに情報交換を密にしていくことが必要であろう。

・ほとんどの教員は1コマの講義に学生を200人程度抱えている。また学生は様々な学部や年齢で、高校時代に歴史をほとんど学ばなかった者、受験勉強で選択し相応の学習歴がある者などさまざまである。それら学生に均等に歴史に関心を持たせるのは至難である。高等学校の歴史教育の現状を今いっそう見据えて教育していく必要があるであろう。

・部会の所属教員の担当コマ数はかなり不均衡である。割りあてコマ数の不均衡を是正する方向で引き続き検討していく必要がある。

・ほとんどの学生がシラバスを見ないで、単に科目名だけを見て受講している現実がある。受講した者に対していかに興味ある講義を提供することができるか、引き続き考えていく。

・次年度後期には国際文化学研究科所属の西洋史担当教員を新規採用予定であるが、新規担当者の担当コマ数を将来を見据えて検討する必要がある。

・以上のような課題について時間をかけ改善していくことによって、学生に「歴史と文化」を積極的に学ぶモチベーションを与え、さらに効果的教育が行えることになるであろう。

様式2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況) 教育部会としておおむねそのようになっている。

根拠資料

大学教育推進機構のサイトなかの教育部会のホームページ。講義配付資料。各種アンケート集計。

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況) 教育部会としておおむねそのようになっている。

根拠資料

- (1) 授業内容が示されたシラバス。
- (2) 配布資料(レジュメ, 地図, 参考文献一覧, 作品画像等を含む)。
- (3) 上記内容を保存した各種メディアファイル。
- (4) 授業内容に関連して使用された電子ファイル。
- (5) 教員の学術論文著書。

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況) ほぼ全員の教員のあいだで、おおむねそのようになっている。具体的には次のようになる。

- (1) 授業資料および関連資料を積極的に提供した。
- (2) 授業中、参考文献を適宜示し、効果的な自習や予習ができるよう配慮した。
- (3) 試験前に試験に備えて勉強すべき事柄を具体的に示した。
- (4) レポート作成に関して、詳細に書き方を解説した。
- (5) 調査法などを具体例と共に提示した。
- (6) 評価基準や観点に関して説明した。
- (7) 毎回、名前を呼んで出席を取っている。

根拠資料

シラバス，配布プリント

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）ほぼ全員の教員のあいだで、おおむねそのようになっている。具体的には次のようになる。

- (1) 対話・討論型授業の導入。
- (2) 情報機器や各種メディアを活用した多用な授業形態へ取り組み。
- (3) TAの活用。
- (4) 必要な学生に対しては、個別指導。

根拠資料

シラバス，配付資料

5-2-③： 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）教育部会として「組織的」ではないが、各教員レベルで以下のような対応が行なわれている。

- (1) 基礎学力テストの実施で学生の理解度を調査。
- (2) 中間テストや小テストの実施。
- (3) 授業感想に関するアンケートの実施。
- (4) 個別指導。
- (5) わかりやすい文献案内指導。
- (6) 講義中に巡回し、学生の理解度に把握した上での講義

根拠資料

シラバス，配付資料

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。（観点に係る状況）ほぼ全員の教員のあいだで、おおむね適切に実施されている。

根拠資料

- (1) 保管されている試験答案.
- (2) 保管されている提出レポート.
- (3) 保管されている出席表.

基準6 教育の成果

6-1-③: 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか.

(観点に係る状況) 下記の個別報告に見られるように, おおむね教育の成果や効果は上がっているといえる.

- (1) 1回おきにアンケートをとり質問を受け付け, 丁寧に回答している.
- (2) 授業終了後個別に質問を受け付けている.
- (3) ベストティーチャー賞に推薦する学生が数人いたという事実.
- (4) 出席率がいいと理解できる.

根拠資料

授業アンケート

基準7 学生支援等

7-1-②: 学習相談, 助言(例えば, オフィスアワーの設定, 電子メールの活用, 担任制等が考えられる.)が適切に行われているか.

(観点に係る状況) 各教員レベルで, 次のようにおおむね適切に行なわれている. ただし, 現時点では担任制はとられていない.

- (1) 授業時間を通しての質問の受け付けとそれに対する助言.
- (2) 電子メールを通しての質問の受け付けとそれに対する助言.
- (3) 希望学生に個別指導.
- (4) 学生アンケートに対する丁寧な回答.

根拠資料

シラバス, 電子メール